

マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社 平成28年3月期 決算説明会資料（プレゼン編）

2016年5月9日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

第一部

Ⅰ 2016年3月期実績（連結）

Ⅱ 2017年3月期予想（連結）

Ⅲ 株主還元

第二部

Ⅰ 中期経営計画（2016～2018年度）

※企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

※2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2015年3月期に関しましては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

第一部

I 2016年3月期実績（連結）

II 2017年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

I 2016年3月期実績

連結業績ハイライト（前年比）

（単位：億円）	2014年度 実績※2	2015年度 実績※1	差異	前年比
売上高	3,420	4,053	633	18.5%
売上総利益	436	443	7	1.7%
営業利益	110	97	▲13	▲11.7%
経常利益	97	102	5	4.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	56	73	17	29.3%

※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期に関しては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

I 2016年3月期実績

連結業績ハイライト（予想比）

（単位：億円）	2015年度 予想 （11/2発表）	2015年度 実績※1	差異	予想比	増減要因
売上高	3,970	4,053	83	2.1%	サーバー・ストレージ、車載、海外ローカルビジネスが伸長 ネットワーク事業の拡大
売上総利益	443	443	0	0%	携帯端末、メモリ等売上総利益率の低いビジネスの拡大 仕入先の合従連衡を背景とした競争激化
営業利益	97	97	0	0.3%	ほぼ計画通り
経常利益	102	102	0	▲0.2%	ほぼ計画通り
親会社株主に帰属 する当期純利益	75	73	▲2	▲2.8%	ほぼ計画通り

※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期に関しては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

連結貸借対照表

(単位: 億円)	2016年 3月末	主な要因
流動資産	1,869	現金及び預金208億円、売上債権789億円、商品735億円等
固定資産	143	有形固定資産65億円、投資その他の資産63億円等
資産合計	2,012	
流動負債	794	仕入債務375億円、短期借入金161億円、前受金107億円等
固定負債	141	長期借入金68億円、退職給付に係る負債53億円等
負債合計	936	
純資産合計	1,076	資本金101億円、資本剰余金427億円、利益剰余金492億円等の株主資本が1,016億円
負債純資産合計	2,012	

※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期に関しては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 億円)	2015年度	主な要因
営業活動による キャッシュ・フロー	▲12	税金等調整前当期純利益106億円、減価償却等の増加要因があったものの、売上債権の増加、たな卸資産の増加、仕入債務の減少及び負ののれん発生益の計上等の減少要因があったことによるもの
投資活動による キャッシュ・フロー	▲15	有形・無形固定資産の取得及び関係会社株式の取得等の減少要因によるもの
財務活動による キャッシュ・フロー	29	配当金の支払い等の減少要因があったものの、短期及び長期借入金の純増等の増加要因があったことによるもの
現金及び現金同等物 の期末残高	207	期首に比べ4億円減少し、株式移転により73億円及び連結の範囲の変更に伴い3億円それぞれ増加

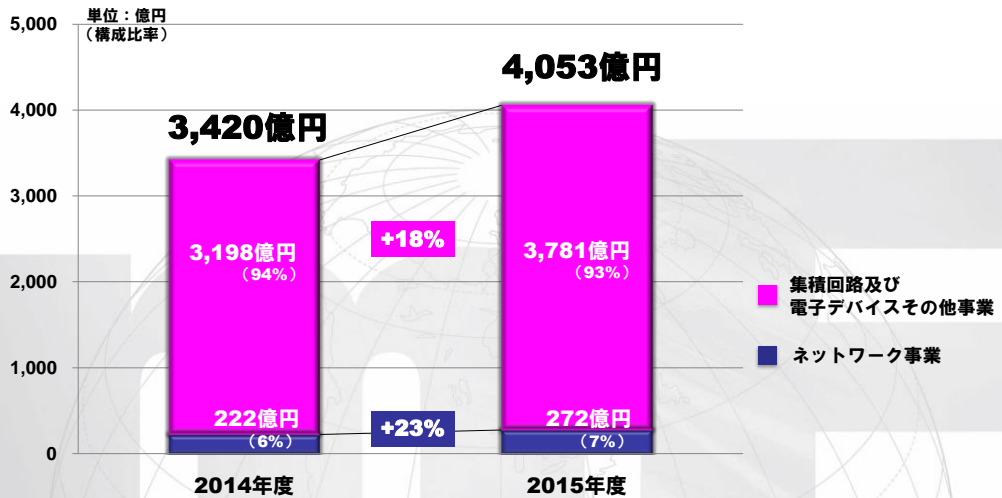
※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。2016年3月期より、ドイツのMacnica GmbHが連結対象となりました。

※2 2015年3月期に関しては、マクニカ（2015年3月期）と富士エレクトロニクス（2015年2月期）の単純合算となります。

I 2016年3月期実績

セグメント別：連結売上高

4,053億円 前年比+18.5%



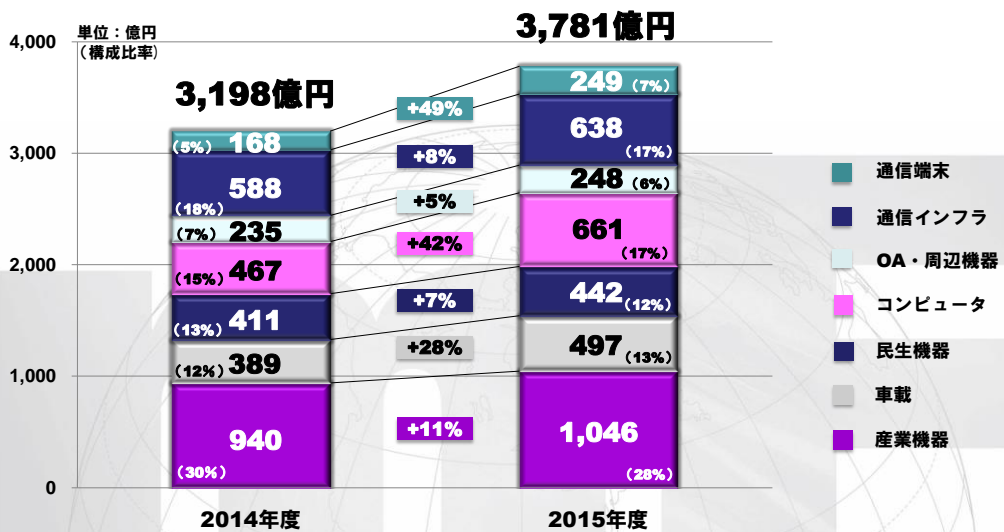
mf Macnica Fuji Electronics

9

I 2016年3月期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（用途別）

3,781億円 前年比+18.2%



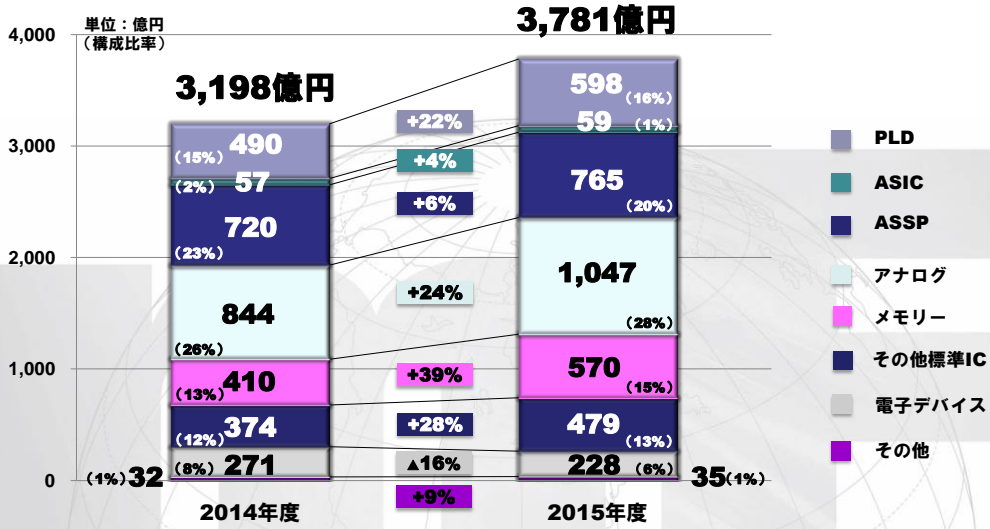
mf Macnica Fuji Electronics

10

I 2016年3月期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（品目別）

3,781億円 前年比+18.2%



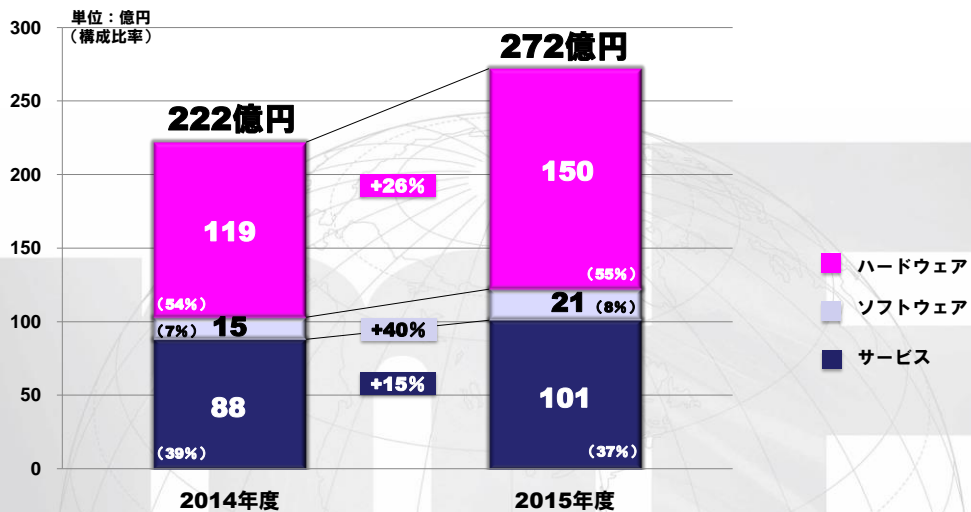
mf Macnica Fuji Electronics

11

I 2016年3月期実績

ネットワーク事業（品目別）

272億円 前年比+22.5%



mf Macnica Fuji Electronics

12

第一部

I 2016年3月期実績（連結）

II 2017年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

II 2017年3月期予想

連結予想ハイライト

（単位：億円）	2015年度 実績※1	2016年度			前年比
		上期予想	下期予想	通期予想	
売上高	4,053	2,000	2,020	4,020	▲0.8%
売上総利益	443	217	245	462	4.3%
営業利益	97	35	55	90	▲7.5%
経常利益	102	34	56	90	▲11.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	73	23	36	59	▲19.7%

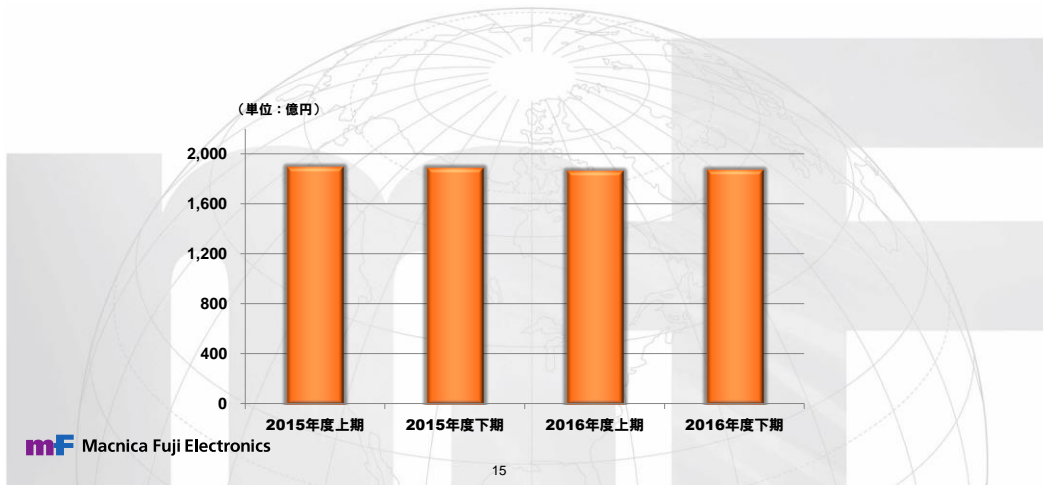
※1 企業結合に関する会計基準に基づき、株式会社マクニカについては2015年4月1日から2016年3月31日まで（12ヶ月）の連結業績、富士エレクトロニクス株式会社については決算期の変更に伴い2015年3月1日から2016年3月31日まで（13ヶ月）の連結業績を連結しております。

集積回路及び電子デバイスその他事業



景気は不透明感が強く、半導体市場は弱含み。

- 通信インフラは、国内外ともに減速する見込み。
- コンピュータは、サーバー向けビジネスの一部終息により減少する見通し。
- 産業機器は、中国の経済減速感から緩やかな回復になる見込み。

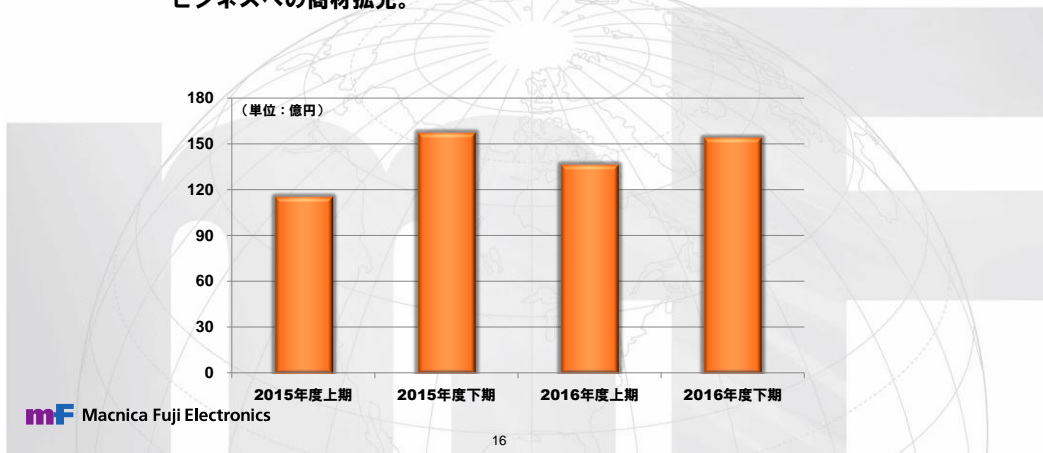


ネットワーク事業



セキュリティ市場は引き続き拡大傾向。

- サイバーセキュリティ基本法の適用対象となる重要インフラ事業者等のセキュリティ投資の拡大が見込まれ、セキュリティ関連ビジネスが伸長する見通し。
- 今後成長が期待されるクラウド・モバイル、データインテリジェンス関連ビジネスへの商材拡充。



第一部

I 2016年3月期実績（連結）

II 2017年3月期予想（連結）

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画（2016～2018年度）

III 株主還元

① 配当予想

配当の基本方針は、将来の事業展開と経営体質の一層の充実・強化のために必要な内部留保を確保するとともに、株主の皆様に対し極力利益を還元すること、諸般の情勢を勘案しつつも安定した配当の継続に努めることと致します。毎事業年度における配当の回数についての基本的な方針は、中間配当並びに期末配当の年2回を原則とします。

なお、当社は取締役会の決議により、会社法第 454 条第5号に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めておりますが、マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社発足の初年度につきましては、期末日を基準とした年1回の配当を予定しております。以上の方針に基づき、当期の配当金は、期末配当1株当たり40円（普通配当35円、記念配当5円）とさせていただきます。予定です。

次期の配当金は、中間配当並びに期末配当の年2回とし、それぞれ1株当たり17円50銭、年間35円を予定しております。

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭
2015年3月期	—	—	—
2016年3月期	—	40.00	40.00
2017年3月期（予想）	17.50	17.50	35.00

②株主優待

■ 内容

保有株数	優待内容
100株以上～200株未満	QUOカード 1,000円分
200株以上～500株未満	下記2種のうち①または②のどちらか一つをご選択いただけます。
500株以上	下記2種①②両方ご利用いただけます。

① 優待商品

専用カタログの中から
好きなものを1点選択する
ことができます。(3000円相当)



※写真はイメージです。

② 優待クラブオフサービス

宿泊・レジャー・スポーツ・ショッピング
・グルメ等の施設やサービスを割安な価格で
利用可能な会員特典を付与します。



※写真はイメージです。

(全国20,000店舗以上、1年間有効・何回でもご利用いただけます)

■ 対象・開始時期

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上を
保有する株主様を対象といたします。

贈呈時期は、毎年6月ごろを予定しております。

第一部

I 2016年3月期実績(連結)

II 2017年3月期予想(連結)

III 株主還元

第二部

I 中期経営計画(2016～2018年度)

経営環境

前例のない規模で半導体メーカーの合併が進行中
半導体産業の寡占化と代理店の淘汰が加速

危機感 & **新たな機会**

新しい半導体商社ビジネスモデルによる成長の時代

中期経営計画

成長の追求による優位ポジションの確立

1 成長戦略

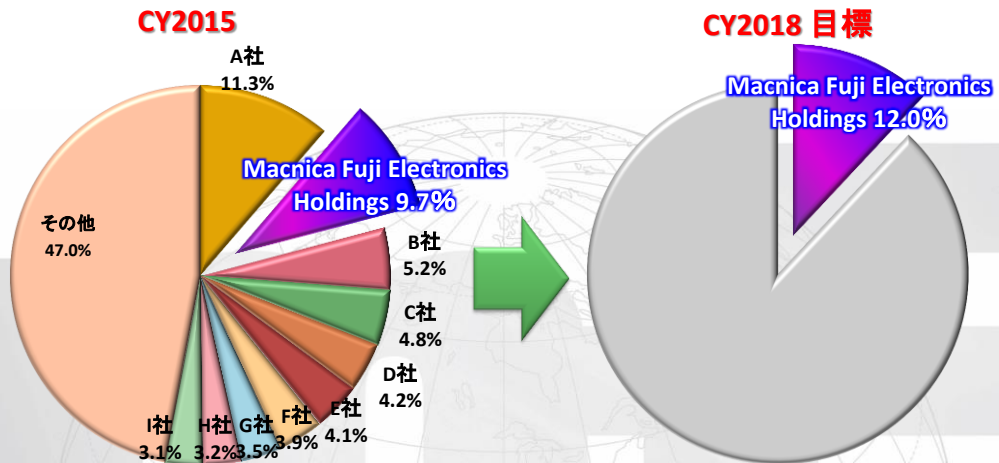
- ① 統合効果によるシェア拡大
- ② グローバル戦略の強化
- ③ ネットワーク事業の強化
- ④ 成長加速の施策

2 中期経営目標

1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 国内（半導体事業）シェア獲得とさらなる拡大

半導体商社の半導体売上シェア（日本市場）

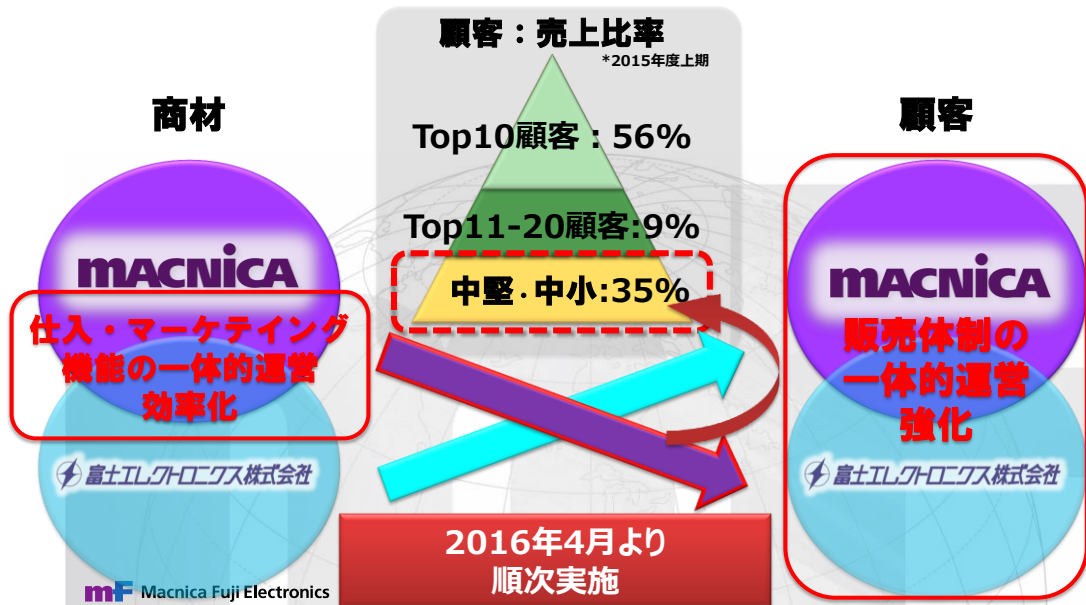


Source: Gartner, "Market Share: Semiconductor Distributors, Worldwide, 2015" 23 February 2016, Chart created by Macnica based on Gartner data.

Source: Macnica

1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 統合効果のキーとなるクロスセル戦略の加速



1 成長戦略：①統合効果によるシェア拡大

■ 統合による生産性・経営効率の向上

国内外拠点の共同体制における効率化

- ◆ 相互出向による人事交流の開始
- ◆ FAEの協業による技術サポート力の一段の向上
- ◆ 2017年度中にシステム・オペレーション・ロジの共通化実施予定
- ◆ 2017年4月より統合人事制度のスタート予定
- ◆ 各本社機能の持株会社への集約化を2016年より順次実施予定

MACNICA

フジエレクトロニクス株式会社

2018年度経費削減目標 20億円以上

1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

サプライチェーンと
デマンドクリエーションを
グローバルに展開



15か国：70拠点

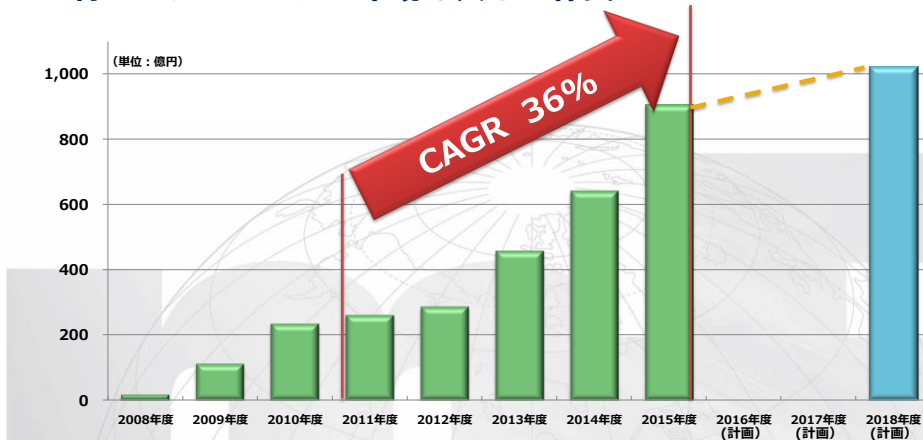
1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

国内契約仕入先の海外展開



1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

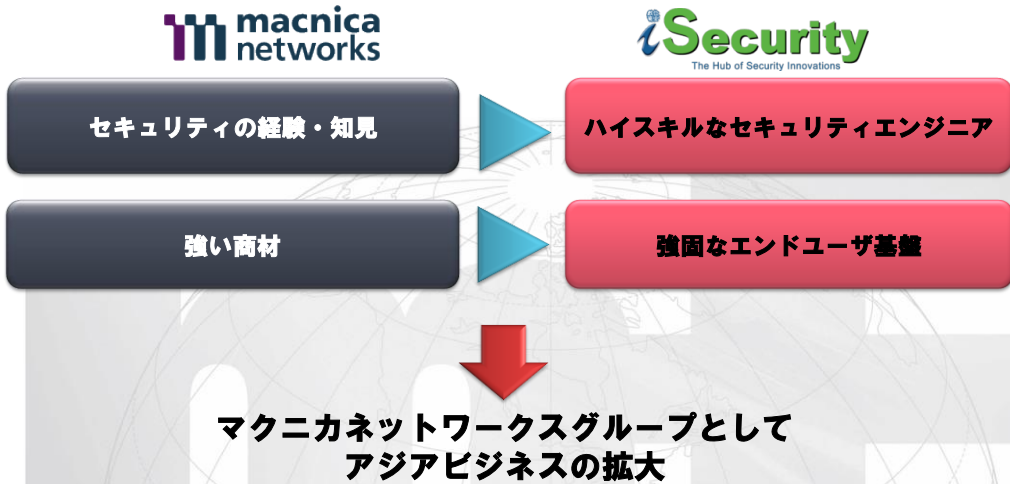
グローバルビジネスは着実に拡大 特にアジアローカル市場は大きく伸長



アジアローカル市場の拡大

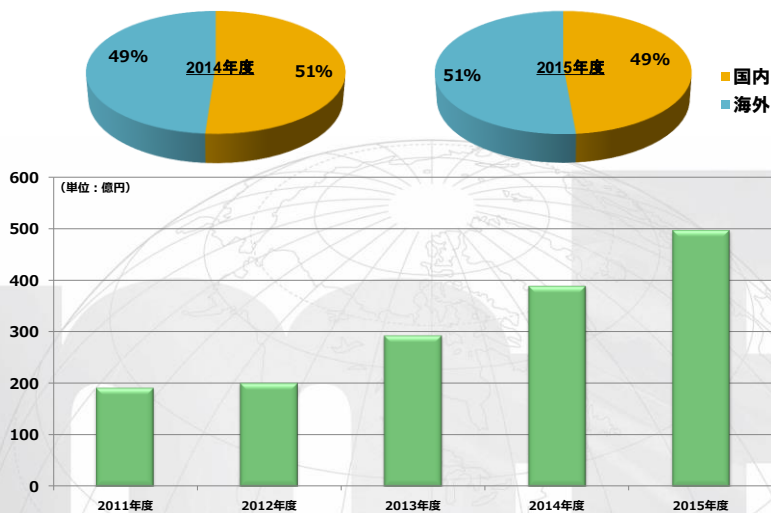
1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

■ ネットワーク事業のアジア展開



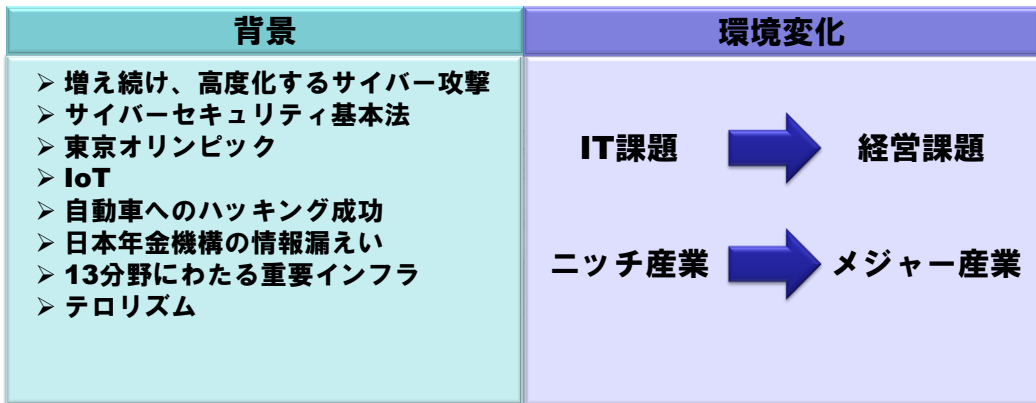
1 成長戦略：②グローバル戦略の強化

■ 車載向けビジネスの拡大、特に海外が大きく伸長



1 成長戦略：③ネットワーク事業の強化

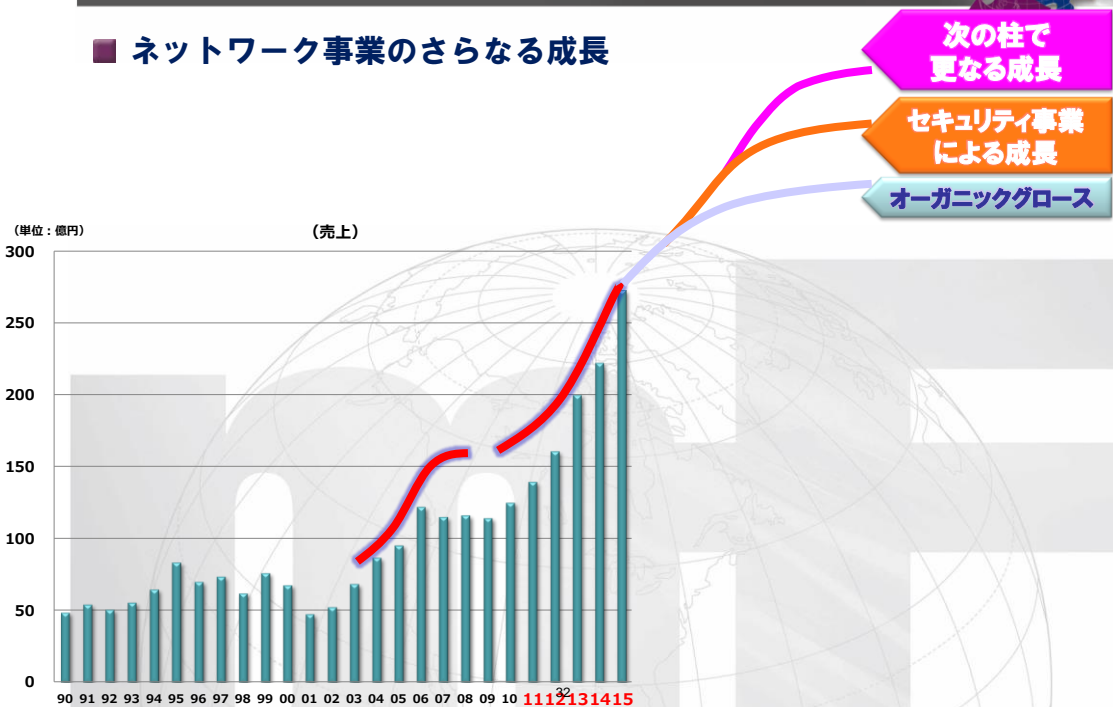
■ セキュリティ事業を取り巻く環境変化



市場は大きく成長

1 成長戦略：③ネットワーク事業の強化

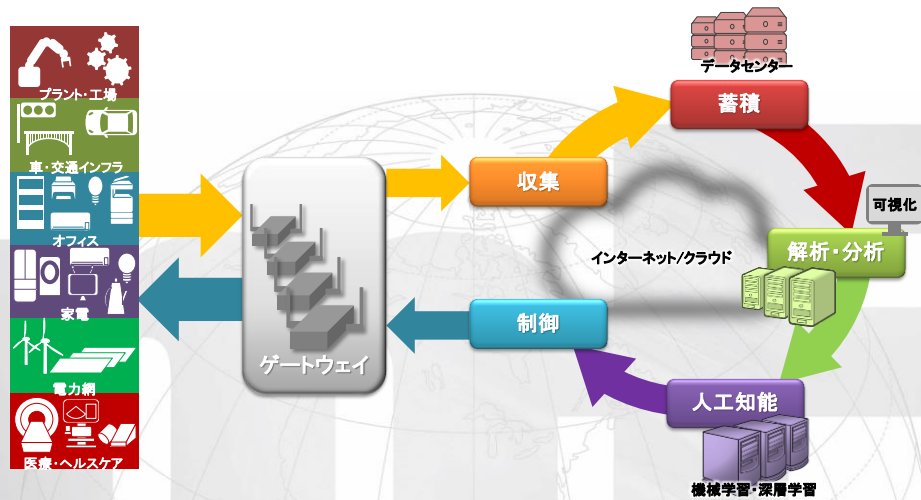
■ ネットワーク事業のさらなる成長



1 成長戦略：④成長加速の施策

■ 差別化した高付加価値ソリューションの展開

➔ IoT（デバイスから収集～分析～人工知能）



1 成長戦略：④成長加速の施策

■ 新規事業への布石

➔ Macnica Ventures始動

➔ 既存事業の成長と新規事業の創出のための投資事業

➔ 未来事業創造室を新設

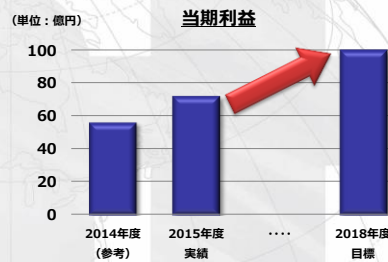
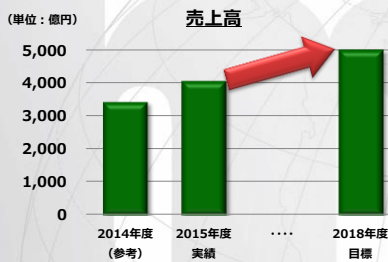
➔ 2016年4月に専用部署を設立



2 数値目標

成長戦略 ①統合効果によるシェア拡大 ②グローバル戦略の強化 ③ネットワーク事業の強化 ④成長加速の施策

[2018年度]



社外取締役候補者の選任に関するお知らせ

平成28年5月9日開催の取締役会において、社外取締役候補者の選任を内定いたしましたのでお知らせいたします。本件につきましては、平成28年6月28日開催予定の第1回定時株主総会の承認をもって正式に決定される予定です。

➤ 選任の理由

経営体制及びガバナンス機能の一層の強化を図ることを目的として、独立性の高い取締役を選任することといたしました。

氏名 (生年月日)	略歴
寺田 豊計 (昭和38年9月19日生)	昭和63年4月 伊藤忠商事(株)入社 平成16年4月 ITOCHU Technology, Inc. Senior Vice President 平成18年5月 伊藤忠テクノロジーベンチャーズ(株) 取締役マネージング・ディレクター 平成25年10月 A2O(株) 代表取締役社長 (現任)
相馬 すんだらん (昭和39年12月8日生)	平成2年12月 東邦システム株式会社入社 平成4年12月 ヴェーダテック株式会社入社 平成13年7月 KPMGビジネスアシュアランス株式会社 (現 KPMGコンサルティング株式会社) 入社 平成21年7月 イー・ティー有限公司 代表取締役CEO (現任) 平成22年3月 ET Advisory Hong Kong Limited CEO (現任) 平成22年5月 ET Ventures合同会社 代表社員 (現任)

※なお、両氏は、東京証券取引所の定める独立役員の要件を満たしており、独立役員として同取引所に届け出る予定です。

■ 免責事項

ここに(Page.23)述べられたガートナーのレポート（以下「ガートナーのレポート」）は、ガートナーのシンジケート購読サービスの一部として顧客向けに発行されたデータ、リサーチ・オピニオンもしくは視点を表したものであり、事実を表現したものではありません。

ガートナーの各レポートは、レポート発行時点における見解であり、この目論見書/企業レポート発行時点のものではありません。またガートナーのレポートで述べられた意見は、事前の予告なしに変更されることがあります。

The Gartner Report(s) described herein, (the "Gartner Report(s)") represent(s) data, research opinion or viewpoints published, as part of a syndicated subscription service, by Gartner, Inc. ("Gartner"), and are not representations of fact. Each Gartner Report speaks as of its original publication date (and not as of the date of this Prospectus) and the opinions expressed in the Gartner Report(s) are subject to change without notice.